

Title	第四章 産業界・行政体との密な連携による学生の育成
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学 博士課程教育リーディングプログラム オールラウンド型「超成熟社会発展のサイエンス」
Publication year	2018
Jtitle	リーディングプログラム7年間の軌跡 (2017.) ,p.127- [164]
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12005003-00002018-0127

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

第四章

産業界・行政体との密な連携による学生の育成

- 4-1. メンター紹介
- 4-2. メンターゼミ（グループプロジェクト演習）
- 4-3. オムニバス講義（地方自治における社会課題の提示）
- 4-4. 政策提言公聴会

本章は、本リーディングプログラムの 2 大柱の一つであるメンター指導の活動や実績を紹介する。

最初に 4-1 でメンターを紹介する。メンターは、日本を代表する企業の現役役員・部長クラスの方 10 余名であって、本学理工学研究科の特任教授（非常勤）に就任し、毎週土曜日の午後を開講されるグループプロジェクト演習（GPE）で、学生たちをゼミ形式で指導する経験豊富な有識者である。

続いて 4-2 では、メンターゼミの構成メンバーやゼミの指導方針・目的を紹介する。学生たちは、月曜日から金曜日まで所属の研究室やゼミでアカデミアの指導教員から指導を受けるが、土曜日は、全く異質の産業界から指導を受けることで、新鮮さを感じるとともに、本プログラム修了後に就職を目指す産業界等の考え方を知る大変良い機会となっている。

そして 4-3 では、本メンターゼミの出口である政策提言について紹介する。特に学生が本プログラムの最終年度 5 年目に、超成熟社会の課題の解決策を企画・検討した成果を発表する公聴会について、紹介する。政策提言の仕方それ自体は、別途指導を受ける。

産業界・行政体からのメンター（理工学研究科特任教授）

▶現役役員・部長クラスの実務・マネジメント経験者 11 名が毎週指導

Marubeni

 **川崎市**
KAWASAKI CITY

FUJI XEROX 

 **JTB 総合研究所**
Japan Tourism Marketing Co.

SONY
make.believe

IBM

HITACHI
Inspire the Next

 **NTTグループ**

 **東京海上日動**

東京海上日動



新日鐵住金

TOSHIBA
Leading Innovation >>>

4-1. メンター紹介

GPE (グループプロジェクト演習) メンター 2017 年度

	メンター名	所属 (慶應義塾大学理工学研究科 特任教授 (非常勤))
1	石川 繁樹	日本アイ・ピー・エム (株) 研究開発 ビジネス開発
2	島崎 豊	丸紅 (株) 執行役員 秘書部長 兼 広報部長
3	村瀬 賢芳	新日鐵住金 (株) 参与 (本社) 内部統制・監査部長
4	日森 敏泰	(株)NTT-ME 取締役 ネットワークサービス事業本部 事業運営部長
5	太田 正隆	(株) JTB 総合研究所 コンサルティング事業部主席研究員
6	多賀谷 晴敏	元 (株) 東京海上研究所 常務取締役研究所長
7	小杉 俊哉	合同会社 THS 経営組織研究所 代表社員
8	赤嶺 政巳	東芝リサーチコンサルティング (株) シニアフェロー
9	野本 和正	ソニー (株) R&D プラットフォーム デバイス&マテリアル研究開発本部 デバイス開発部門 チーフ UI デバイスリサーチャー / 主幹技師 (株)
10	有吉 司	日立製作所 総合教育センタ 日立総合技術研修所 所長
11	田中 徹	富士ゼロックス (株) Industry Business Solution & Service 事業本部 技術&ビジネス主幹
12	中村 茂	川崎市市民文化局コミュニティ推進部長
13	南 昭子	川崎市中原区 地域みまもり支援センター担当部長
14	高山 緑	慶應義塾大学理工学部 教授 ジェロントロジー・カウンセリング担当
15	Davisi Boontharm	明治大学 大学院理工学研究科 建築・都市デザイン 国際プロフェッショナルコース (兼 本学理工学研究科 特任准教授 (非常勤))

過去のメンター

鈴木 毅	川崎市 総合企画局 スマートシティ戦略室 室長	2012.4~2013.3
桂 晃洋	株式会社日立製作所 総合教育センタ技術研修所 所長	2012.10~2013.3
本多 宏充	株式会社協和エクシオ 国際部門長	2012.10~2014.3
金子 督	川崎市 総合企画局 都市経営部 部長	2013.4~2014.3
袖山 洋一	川崎市 総合企画局 自治推進部 部長	2014.4~2015.3
山田 祥司	川崎市 総合企画局 自治推進 部長	2015.4~2016.3
高橋 竜三	東京海上日動HRAシニアフェロー	2013.5~2016.3
上田 理	ソニー株式会社 SGMO 管理室 チーフオープンアライアンスマネージャー	2012.4~2017.3
高橋 雄一郎	特許業務法人 高橋・林アンドパートナーズ 代表 弁護士	2012.4~2017.3
沢 真司	株式会社日立製作所 総合教育センタ 日立総合技術研修所 所長	2013.7~2017.3
石渡 伸幸	川崎市 市民文化局コミュニティ推進部 部長	2016.5~2017.3
山崎 徹	富士ゼロックス株式会社 研究技術開発本部研究主幹	2012.4~2017.9



メンター紹介



石川 繁樹 (2012.4～現在)

日本アイ・ビー・エム(株)

研究開発 成長戦略担当

RAへの期待

超成熟社会超成熟社会をサイエンスする、というタイトルで参集したRA 諸君達には、今後直面するであろう、あるいは、すでに直面している、様々な諸問題に対して、ひるむことなくチャレンジし、日本のみならず、グローバル的な視点で、解決策、ビジョン、戦略、そして実践をリードできる人材として、活躍を期待しています。これには、問題の分析能力、戦略の立案、妥当性の評価の能力、そして、それらを実践するコミュニケーション、Project Management の能力が必要です。Leading 大学院での学びは、序章にすぎません。さらに、今後の益々の成長に期待します。

略歴

工学博士 1985 年日本アイ・ビー・エム(株)東京基礎研究所に入社後、基礎研究所、開発企画部門、ソリューション営業などを経験した後 IBM Tokyo Lab にて、IBM のテクノロジーを活用したビジネス展開をリード、現在、研究開発・成長戦略を担当。



メンター紹介



島崎 豊 (2012.4～現在)

丸紅(株)

執行役員 秘書部長 兼 広報部長

RAへの期待

企業、公的機関等におけるリーダーを目指すため、学生(RA)には個としての圧倒的な実力を築くことを求めている。大学院の主・副専攻で徹底して専門分野を磨くことに加え、リーディングでは論を組み立てるための幅広い知識、そして海外留学やインターン等の経験と、実業を通じて様々な経験・知見を有しているメンターによる惜しみない指導により、ストレスのかかった状況下でも、平常心を保ちながらその局面を打開し、目標に向かって諦めず粘り強くやり抜く力を培うことを期待している。

略歴

執行役員秘書部長兼広報部長

1982年慶應義塾大学経済学部卒、同年丸紅(株)入社、海外インフラ事業に長年従事しイラク、タイに駐在。経営トップのサポート、財界活動支援、及び社業の渉外業務、広報責任者を務めている。筑波大学客員教授、日本秘書協会理事。



メンター紹介



村瀬 賢芳 (2014.4～現在)

新日鐵住金(株)

参与 (本社) 内部統制・監査部長

RAへの期待

- ・ 主専攻・副専攻における高い専門力だけでなく、同世代の社会人と比べても遜色のない実務力習得をめざします。
- ・ 困難な状況下でも最後までやり抜き、答えを出す力を養うことを期待しています。文理融合の下で自身の専門分野以外にも積極的に議論に加わっていく知のプロフェッショナルが着実に育っています。
- ・ 産業界の一員として本プログラム修了生の活躍に大きな期待を抱いています。

略歴

1984年新日本製鐵入社。本社、製鐵所、研究所等において人事、総務等に従事し、2016年4月から現職。



メンター紹介



日森 敏泰 (2014.4～現在)

(株)NTT-ME

取締役 ネットワークサービス事業本部 事業運営部長

RAへの期待

MMD取得による文理の融合、毎週の企業メンターゼミと博士課程取得による学術と実業の融合等、様々なイノベーション人材に育てる機会を与えてくれる今までにないチャレンジングのプログラムであり、さらには海外経験を通してグローバル感覚を養えるよい場であるが、修了するには大変厳しいプログラムである。これを活かせるかどうかはRAの皆さんの努力と高い達成意欲にかかっており、真摯に取り組み、将来の日本を支える人材として育ててほしい。

略歴

H1年慶應義塾大学修士卒。NTT入社後開発に従事。H11年NTT東日本に再編され、人事、サービス開発、営業企画に従事。H21年NTT(持株)で人材育成に従事後、H24年NTT-ME事業部長。H26年NTT東日本群馬支店長。H29年7月より現職。



メンター紹介



太田 正隆 (2015.4～現在)

(株) JTB 総合研究所
コンサルティング事業部主席研究員

RA への期待

5年間で文理融合の MMD 取得を目指すという非常に高い目標を目指す当プログラムにチャレンジする RA の高い志とチャレンジ精神に、心より敬意を表します。

今までに出会った多くの RA に共通して言えることは、不安と期待の中にあっても探究心や向上心が強く、多くのメンターとの出会い、ワークショップ、フィールドワーク、留学などを通じた体験や学習について、理論と実践の取得についても日々悩みながら最大の努力をしているということ強く感じます。

略歴

観光を通じた地方創生・地域活性化等の調査研究。訪日観光、コンベンション総合研究所・国際会議等の MICE 全般の調査研究、コンサルティング等。自治体、中央官庁等に関連する国内 47 都道府県全域及び海外調査等。専門は人文地理学、民俗学、政治学、観光立国、まちづくり、訪日観光等。



メンター紹介



多賀谷 晴敏 (2016.4～現在)

元(株)東京海上研究所
常務取締役研究所長

RA への期待

世界に例のない少子高齢化に加えて「exponential な技術革新スピード」による不確実性の増大で、従来の方法や発想では対処できない状況にある。深い専門性と幅広い俯瞰力を兼ね備えた課題解決能力を持つと同時に「人とは何か」という根源的な問いも考える人材が求められる。慶應リーディングプログラムの文理融合の MMD や GPE 演習はそのような人材育成に格好の機会である。極めてハードルの高いプログラムであるが、将来世代のために是非頑張ってもらいたい。

略歴

元東京海上研究所常務取締役研究所長。一橋大学法学士、ハーバード大学経営学修士。1977 年東京海上火災保険株式会社入社。企業のリスク管理を中心に、ロンドンの再保険子会社の経営を含む 12 年の海外勤務経験。



メンター紹介



小杉 俊哉 (2016.4～現在)

合同会社 THS 経営組織研究所
代表社員

RA への期待

文理に亘る自身の専門分野の追求だけでなく、様々な分野を極め、活躍する教員やそれを追求する RA の仲間から学び、多角的な視座を持つ人材になって欲しい。また、絶えず社会の課題に目を向け、それを自分事化すること、そこから仮説、解決策を見出すことを身につけて欲しい。それ以上に、人と共感、協業できるコミュニケーション力、人間関係の構築力を身につけ、そして自身の人間力も磨き、日本のリーダーになって欲しいと願っている。

略歴

NEC、マッキンゼー、アップルなどを経て、独立。慶應義塾大学政策・メディア研究科准教授などを経て、THS 経営組織研究所代表。同大学理工学研究科特任教授。立命館大学客員教授。ふくおかフィナンシャルグループなど複数社で社外取締役。



メンター紹介



赤嶺 政巳 (2016.4～現在)

東芝リサーチコンサルティング (株)
シニアフェロー

RA への期待

高い専門性を基軸に社会課題・将来ニーズを俯瞰的、多面的に把握できる幅広い知識と考察力、具体的な計画に写像できる想像力、企画力を身に付けて欲しい。そのために主専攻、副専攻、GPE、RA やメンターとの議論の全てにおいて自己の時間管理を徹底し、一般博士学生以上の努力と積極性、情熱を期待する。できないなら主専攻に戻るぐらいの覚悟でやって欲しい。

略歴

1985 年東北大・電子・博士課程修了、工博。同年東芝入社、研究開発センターにて音声処理技術の研究開発、同技術の事業化、英国および中国研究所の音声技術グループ設立、海外大学連携推進。信学会論文賞、業績賞、全国発明総理大臣賞等多数受賞。2013 年音声合成技術実用化により紫綬褒章受章。



メンター紹介



野本 和正 (2017.4 ~現在)

ソニー(株)

デバイス & マテリアル研究開発本部
チーフ UI デバイスリサーチャー / 主幹技師

RA への期待

近年の産業界リーダー人材の世界的な動向を見ると、30-40代の若いリーダーの活躍が目立つ。RAのメンバーには、学問の専門性だけでなくリーディングプログラムを通じて身に着けた課題発見力、解決力、コミュニケーション力を活かして、(1) 今後の日本の産業界をリードし世界と戦える人材、(2) 日本に新たな新規事業を創出できる人材、そして(3) 新たな後進のリーダーを育成できる人材に育ててほしい。

略歴

博士(理学) 1991年ソニー(株)入社後、主に半導体・ディスプレイデバイスの研究開発に従事。1998年米国マサチューセッツ工科大 客員研究員。2011年よりディスプレイ開発部門 部門長を経て、現在、主幹技師 / チーフ UI デバイスリサーチャー。



メンター紹介



有吉 司 (2017.4～現在)

(株)日立製作所

総合教育センタ 日立総合技術研修所 所長

RA への期待

複雑で不確実な将来の社会の問題にみなさんが対峙するとき、それをひとりの生活者の課題にまでブレークダウンして洞察すること。自他の複数のサイエンス、専門性を掛け合わせたアイデアをすばやくプロトタイプングすること。人の価値観や事業性、技術的実現性、法・制度といった条件が奇跡的に交錯するポイントにイノベーションの核心を求め、それが超成熟社会に生活するひとりひとりにどんな幸せをもたらすかを探索的に実証していくことを期待します。

略歴

1983 年東京藝術大学美術学部デザイン科卒業、日立製作所デザイン部門に入社。5 年間のイタリア駐在、3 年間の鉄道システム事業部門を経て 2011 年にデザイン部門長就任。その後コーポレート R&D 技術戦略室長、技師長、2017 年 4 月より現職。



メンター紹介



田中 徹 (2017.10～現在)

富士ゼロックス(株)

Industry Business Solution & Service 事業本部
技術&ビジネス主幹

RA への期待

超成熟社会になりつつある今こそ、より「人間らしく」考え、より「人間らしく」人の輪を作り、より「人間らしく」行動することに大きな価値が出てきます。過去に前例や正解を求めることが出来ないことを『真っ白で大きなキャンバスが与えられた』と捉え、ワクワクしながら、自由に、縦横無尽に動き回り、一つ一つの課題解決を図ってゆく、快活で自己効力感の高い個人に共に成長してゆきましょう！

略歴

1982年東北大学大学院工学研究科卒業、富士ゼロックス(株)入社。カラープリンターの研究開発、コンサルティング事業 / クラウド事業の立上げを担当。途中、米国東研究駐在員、米国西研究子会社運営に携わる。現在、技術&ビジネス主幹。



メンター紹介



中村 茂 (2017.4～現在)

川崎市

市民文化局コミュニティ推進部長

略歴

1988年12月 川崎市役所入庁。高津区役所総務企画課主幹、高津区役所企画課長、高津区役所総務課長、総合企画局都市経営部広域企画課長、総合企画局都市経営部担当部長（企画調整課長事務取扱）、市民・こども局市民文化室担当部長、市民文化局市民文化振興室長、2017年4月から現職



メンター紹介



南 昭子 (2017.4～現在)

川崎市中原区

地域みまもり支援センター担当部長

RA への期待

少子高齢化、労働力不足など行政が直面するテーマでのRA達の研究活動においては、現場に赴き実際に見て、現場の声を聞き、体験して初めてそう言えるのだ、という意識が徹底して共有されている。自らの価値観や課題認識を他者のそれと擦り合わせ、社会が本当に求めるものに昇華させるプロセスは、実現性、実効性の高い血の通った政策には欠かせない。トップリーダーとして分野を牽引し社会に貢献する彼らの活躍が期待される。

略歴

1986年4月 川崎市役所入庁。総務局市民情報室政策担当主幹、総合企画局企画調整課担当課長、健康福祉局医療政策推進室担当部長、市民こども局シティセールス広報室長、中原区役所こども支援室長、2016年4月から現職



メンター紹介



高山 緑 (2012.4～現在)

慶應義塾大学

理工学部 教授

ジェロントロジー・カウンセリング担当

RA への期待

リーディング大学院プログラムでの活動を通じて、自身とは異なる分野を専門とする学生やメンター（企業、行政の方）、教員との日々の議論は、新しい世界への道を拓くだけでなく、皆さんの視野を広げ、新しい知の創造に確実に結びついていると感じています。使命をもち、自分がやるべきこと、やりたいことを常に認識しながら、より伸びやかに、より軽やかに、世界で活躍されることを期待しています。

略歴

慶應義塾大学文学部卒。東京大学大学院教育学研究科博士課程修了。武蔵工業大学（現、東京都市大学）専任講師、慶應義塾大学准教授等を経て現職。博士（教育学）、臨床心理士。



4-2. 産業界メンターゼミ

メンターゼミ（グループプロジェクト演習）（1/11）

産業界からのメンターによる、問題発見力、企画力、問題解決力を開発するための少人数制ゼミ



石川 繁樹
(日本 IBM)

- ・ゼミでは、課題発見能力、俯瞰的な見方、課題解決力、リーダーに必要なコミュニケーション能力を育成します。
- ・新たなアイデアを創造できる力、それを人にうまく伝える力が育っていると実感します。
- ・IBM は高度人材育成サポートに積極的です。本プログラムに大きく期待しています。
- ・今後は、自ら Vision を描き、実現に向け屈せず努力する学生が目標です。



ゼミ風景



2 期生

安部 義隆
理工学 (D2)

運動促進をもたらすロボットの社会普及の提言と効果推定



3 期生

中尾 光良
薬学 (D2)

薬剤師の有効活用による理想的な医療環境の創出



3 期生

岡本 翔平
経済学 (D1)

予防医療のすすめ



6 期生

榊原 優真
理工学 (M1)

(検討中)



6 期生

小関 健太郎
文学 (M1)

(検討中)

IBM 基礎研究所を見学させ、研究員との Discussion やインタビューを介して様々なヒントを与えました。今後は、最新 IT による Analytics Technology の実体験を計画しています。

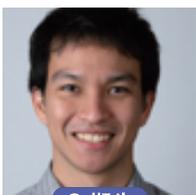
メンターゼミ（グループプロジェクト演習）（2/11）

産業界からのメンターによる、問題発見力、企画力、問題解決力を開発するための少人数制ゼミ



島崎 豊
（丸紅）

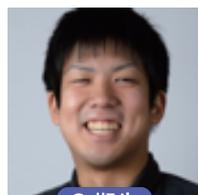
- ・学生の自主性を尊重し、各人が1年間のテーマを設定しその目標達成を目指している。毎週土曜日のグループ演習においては相互に発表・指摘しあうことでそれぞれのテーマについて理解を深めている。
- ・プロアクティブに考え行動することを重視しており、問題解決の道筋を考え、関係者との面談・インタビューや現地調査を含め能動的に研究を進めている。



2期生

中村 雄輝
社会学（D2）

途上国における社会発展



2期生

小西 隆介
理工学（D2）

再生可能エネルギー大量導入のための政策提言



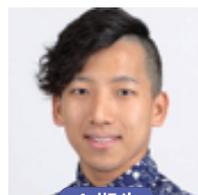
ゼミ風景



3期生

石川 岳史
理工学（D1）

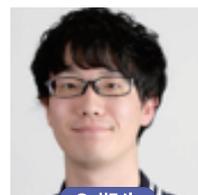
消費者を巻き込んだ新製品開発コミュニティ構築



4期生

眞明 圭太
医学（副M1）

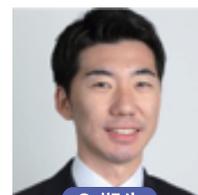
林業の再生持続可能性の追求



6期生

八木 賢太郎
理工学（M1）

（検討中）



6期生

嶋田 光喜
医学（D1）

（検討中）

- ・学生自身では手配が難しい面談をアシストしている（元通産省次官、業界団体／企業幹部等）
- ・グループ演習における海外現場視察や関係先との面談のためのロジアシスト（米国、英国等）

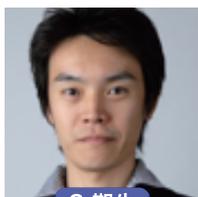
グループプロジェクト演習：個別ゼミ紹介（3/11）

産業界からのメンターによる、問題発見力、企画力、問題解決力を開発するための少人数制ゼミ



村瀬 賢芳
(新日鐵住金)

- ・同世代の社会人と比べ、遜色のない実務力を習得させた上で、人間力、行動力、実践力を養成します。
- 困難に対し最後まで粘り強くやり抜く力や、多角的なアプローチ力等が育ってます。
- ・弊社では、本プログラムの学生に大きな期待を抱いてます。
- ・今後は更に、RA相互の連携や、自らの進路を自立的に考察、切り開くよう期待します。



2期生

若泉 謙太
経済学 (副 M1)

モチベーションの科学



3期生

高倉 優理子
理工学 (D1)

超成熟社会における文化資本の活用



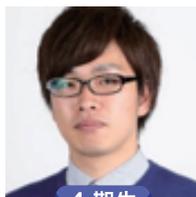
ゼミ風景



4期生

岡野 寿朗
理工学 (M2)

中小企業の強
靱化



4期生

高橋 貴臣
理工学 (副 M1)

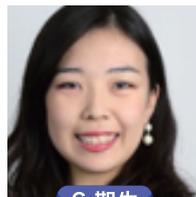
人文社会系
大学院生の活用



5期生

水口 高翔
理工学 (M2)

医療機器産業



6期生

早坂 若子
政・メ (M1a)

(検討中)

- ・芸術教育について文科省の担当者を紹介、弊社内の産業医等との面談設定。
- ・キャリアパス講演のスピーカー2名招聘。海外インターンシップ先発掘を支援。

グループプロジェクト演習：個別ゼミ紹介（4/11）

産業界からのメンターによる、問題発見力、企画力、問題解決力を開発するための少人数制ゼミ



日森 敏泰
(NTT-ME)

- ・個性を生かした豊かな人間性を醸成します。
チームとしてのリーダー/フォロワシップを強化し、問題発見、解決力、実行力を育成します。
- ・強い意志、積極性、自主性を実感します。高い視点、広い視野を持つ努力を感じます。
- ・社内でも、イノベーションを先導するリーダー育成プログラムとして期待されています。
- ・今後は、想像力、問題発見力、行動力を備えた革新力のある人材になって欲しい。



ゼミ風景



2期生

田中 裕樹
理工学 (D3a)

超成熟社会におけるキャリア教育政策



3期生

小林 優一
経済学 (D1)

高齢者見守り体制の現状と課題



4期生

石川 貴啓
商学 (副 M1)

中小企業の福利厚生

- ・ NTT グループの専門家や総務省関係者へのインタビュー実施、地方自治体へのヒアリング
- ・ 社会経験不足を補うため、関係者との討論や人材交流の機会を増やしたい。

グループプロジェクト演習：個別ゼミ紹介（5/11）

産業界からのメンターによる、問題発見力、企画力、問題解決力を開発するための少人数制ゼミ



太田 正隆
(JTB)

- ・「国際」について、リージョナル、ローカル等多角的な視野を持つ。
- ・「言葉」だけでなく、社会構造から生活、習慣、文化への理解を深耕する。
- ・「定量」だけでなく、定性や寛容で物事を考えられる幅も持つことを期待しています。弊社では、このプログラムに大きな期待を持っています。



ゼミ風景



4期生

高橋 萌
理工学（副M1）

持続的な葬送墓
制の在り方



4期生

小島 康裕
商学（副M1）

超成熟社会に
おける起業活動
の活性化



6期生

篠崎 紗衣子
理工学（M1）

（検討中）



6期生

丁 飛
法学（M1）

（検討中）

- ・観光庁、経産省、自治体等の観光立国、クールジャパン、地方創生担当者等のヒヤリング
- ・施設、メディア、コンテンツ産業など多様な企業へのヒヤリング

グループプロジェクト演習：個別ゼミ紹介（6/11）

産業界からのメンターによる、問題発見力、企画力、問題解決力を開発するための少人数制ゼミ



小杉 俊哉
(THS 経営組織研究所
代表社員)

- ・問題解決の前に、問題を見出し、定義する力 (know what) が求められる。そのためには多様な視座、視野、視点を持つ習慣を身に付けたい。
- ・問題解決においては、正解はないという前提で、意思決定する力を付けていきたい。
- ・どう表現するか (how) 以上に、誰が言うか (who)、が説得力の源泉であり、自分自身 (being) を意識して高めていってほしい。



ゼミ風景



3 期生

M. O. Boussejra
理工学 (D2a)

Educational
Technologies for
Foreign Language
Learning



5 期生

今給黎 薫弘
理工学 (M2)

認知症ケア環境
の調査及び「D
マーク」プロ
ジェクトの提案



5 期生

香西 孝司
理工学 (M2)

中小企業の
産学連携



5 期生

**横倉 瑛之
政・メ** (M2)

日本の大学教育
の政策

- ・大企業において閉塞感を持つ人が多い中イントレプレナーとして活躍する人たちとの交流
- ・企業のブランド、リソースに頼らず自ら事業を興しているアントレプレナーたちとの交流

グループプロジェクト演習：個別ゼミ紹介（7/11）

産業界からのメンターによる、問題発見力、企画力、問題解決力を開発するための少人数制ゼミ



多賀谷 晴敏
(元東京海上日動 HRA)

- ・我々は、日々の生活の中で、企業人として、社会人として、様々な判断、決定に迫られます。その時に、最善の選択ができるよう「考える力」を涵養することを目指します。
- ・技術革新の進展とともに我々を取り巻く環境は今迄にないスピードで変化します。人類は、早晚、科学の進歩と倫理の問題に直面しますが、その時のために自分の答えを今から用意することを目指します。



ゼミ風景



2 期生

山田 翔士
薬学 (D2)

非創薬系を含む
新しいヘルスケア
産業の発展



3 期生

平尾 美佳
健マネ (D1)

済連携協定
(EPA) に基づく
外国人看護師の
受け入れ



4 期生

李 若菲
商学 (副 M1)

ハラールビジネス



5 期生

池本 駿
経済学 (M2)

不登校児支援

- ・デジタル社会において変化する社会環境と価値観の推移について理解を深めるための演習
- ・多様な価値観に接する機会を設け、肌で diversity を感じてもらいたい

メンターゼミ（グループプロジェクト演習）（8/11）

産業界からのメンターによる、問題発見力、企画力、問題解決力を開発するための少人数制ゼミ



赤嶺 政巳
（東芝）

- ・自分なりの視点で社会問題や将来課題を俯瞰的に捉え、解決に向けて提言できるよう、色々な角度から議論して行きます。
- ・リーディングの学生は優秀でしっかりしているとの声があり、本プログラムは社内でも期待されています。
- ・自ら徹底的に考え抜き行動のできる、影響力の大きな人物になることを期待しています。



6期生

鷄内 朋也
理工学（M1）

（検討中）



6期生

米山 慎太郎
理工学（M1）

（検討中）



- ・企画部門や事業部門などの多様な人たちとのディスカッション
- ・国際社会で活躍している日本人研究者との交流

メンターゼミ（グループプロジェクト演習）（9/11）

産業界からのメンターによる、問題発見力、企画力、問題解決力を開発するための少人数制ゼミ



野本 和正
(ソニー)

- ・イノベーションを起こせる人材を育成するのが目標です。課題発見・認識力・解決力・論理的思考力の育成を行っていきたいと思います。
- ・また、周囲を巻き込む人間力・コミュニケーションスキル。コンセプチャルスキルの強化も図っていきたいと思います。ゼミでは自由な発想とオープンな議論、個人の多様性の尊重していきたいと思います。



ゼミ風景



2期生

澤田 寛人
政・メ (D2)

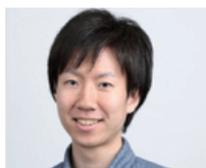
日本における多文化共生社会の実現に向けて



3期生

池田 泰成
理工学 (D1)

知識や技術を共有するネットワークの構築



5期生

中島 由勝
理工学 (D1a)

Web サービスを利用した共同研究の創発

視野を広げるために、ソニーの専門家・新規事業立ち上げ人材や他の企業のイノベティブ人材へのインタビュー・議論の場を設けていきたいと思います。

メンターゼミ（グループプロジェクト演習）（10/11）

産業界からのメンターによる、問題発見力、企画力、問題解決力を開発するための少人数制ゼミ



有吉 司
（日立）

- ・複雑で不確実な将来の社会課題に対峙するときに、それをひとりの生活者の課題にまでブレークダウンして洞察することをゼミでは重視します。
- ・自他の複数の専門性を掛け合わせ、アイデアをすばやくプロトタイピングして実証を繰り返し、探索的にイノベーションの核心に迫っていくという、スリリングで知的な興奮をみなさんと一緒に味わいたいと思います。



ゼミ風景



2期生

近藤 賢郎
理工学 (D2)

持続可能な高度医療制度の実社会における実装法



2期生

小川 健司
理工学 (D2)

行動科学に基づいた生活習慣病予防のための政策提言



4期生

片桐 渉
理工学 (M2)

多様化する労働者と労働環境の適応



6期生

黒部 聡亮
理工学 (M1)

(検討中)



6期生

石田 陽一郎
商学 (M1)

(検討中)

日立グループ研究所の見学、研究者やデザイナーをはじめとしたオープンイノベーションを実践する人々へのインタビューやワークショップ、フィールド調査を計画しています。

メンターゼミ（グループプロジェクト演習）（11/11）

産業界からのメンターによる、問題発見力、企画力、問題解決力を開発するための少人数制ゼミ



田中 徹
(富士ゼロックス)

- ・簡単に解は出ないが社会的に重要となる課題を自ら抽出し、多様な仲間の経験・英知を結集し課題解決を目指すリーダー人材の育成を図ります。
- ・外に出る事も重視し、筋肉 / 脳の両方を働かせて活動を推進できる、人間的にも魅力ある人材育成を目指したいと思います。



3 期生

田中 里芳
理工学 (副 M1)

芸術鑑賞の推進



4 期生

佐野 岳史
政・メ (副 M1)

社会問題に
おける
関心度の向上



4 期生

鈴木 敬和
経済学 (副 M1)

超成熟社会に
おける
農業の在り方



5 期生

角 晴美子
経済学 (M2)

認知症カフェ
の普及

現地現物を前にした取り組みを積極的に進め、多様なメンバーを巻き込みながら課題解決サイクルを回します。

- (1) 諸先輩にお話を伺い、
- (2) 海外含む研究所 / 事業拠点 / 生活拠点等の現場を訪問し、
- (3) 他のコミュニティにも参画し、
- (4) 新しい事を仕掛けて行きます。

4-3. オムニバス講義（地方自治における社会課題の提示）

2013年度 川崎市オムニバス講義

	講義日	講義テーマ	講師
第1回	5月18日	人口減少・超高齢化時代へ向けての市民への交通サービスの提供と行政の関わり	川崎市まちづくり局 交通政策室長 綿貫康治
第2回	5月25日	道路・橋梁等インフラの老朽化 ～超高齢化人口減少社会を見据えた持続可能なインフラの整備・管理・更新の方向性とは～	川崎市建設緑政局担当理事 金子正典 計画部長 山田彰彦
第3回	6月1日	地域コミュニティの活性化；一人暮らし高齢者等への生活支援	市民・こども局市民生活部長 西義行 健康福祉局地域福祉部長 蛭名輝男
第4回	6月8日	高齢者への住宅対策	川崎市まちづくり局 交通政策室長 綿貫康治
第5回	6月15日	我が国の医療政策と川崎市の取組～人はどこで死ぬのか・死にたいのか？～	川崎市健康福祉局 医務監 坂元昇
第6回	6月22日	超成熟社会における持続的な生活保護制度の在り方と雇用問題について	建国福祉局生活保護・自立支援室長 亀川栄 健康福祉局障害保健福祉部長 萩原利昌

2014年度 川崎市オムニバス講義

	講義日	講義テーマ	講師
第1回	5月10日	地方分権改革の推進と 市民自治の確立	川崎市総合企画局 自治推進部長 袖山 洋一
第2回	5月17日	都市基盤の老朽化、 災害対策の強化	川崎市建設緑政局 計画部企画課長 福田 賢一
第3回	5月24日	健康・医療産業の創出による 超高齢社会における課題解決 と経済発展を目指す成長戦略 (ライフイノベーション)	川崎市総合企画局 臨海部国際戦略室担当課長 玉井 一彦
第4回	5月31日	福祉産業の振興を通じた高齢 化に伴う課題解決の取組(ウェ ルフェアイノベーション)	川崎市経済労働局 次世代産業推進室ウェルフェ ア・ヘルスケア産業担当課長 松川 哲司
第5回	6月7日	地球規模での「環境」と「経済」 の調和と好循環の実現(グリー ンイノベーション)	川崎市環境局 地球環境推進室担当課長 井田 淳
第6回	6月14日	臨海部産業地帯の持続的発展 に資するスマート化の推進	川崎市総合企画局 スマートシティ戦略室担当課長 高橋 友弘

2015年度 川崎市オムニバス講義

	講義日	講義テーマ	講師
第1回	5月2日	障害者施策 ～就労支援と地域支援～	川崎市健康福祉局 障害保健福祉部障害者雇用・ 就労推進課長 棚澤 直美
第2回	5月9日	中小企業の新事業創出支援 <川崎モデル>	川崎市経済労働局産業政策部 企画課課長補佐 木村 佳司 (公財)川崎市産業振興財団新事業 新事業/知的財産コーディネータ 宇崎 勝
第3回	5月16日	「環境」と「経済」の調和と 好循環を目指して	川崎市環境局 地球環境推進室担当課長 井田 淳
第4回	5月23日	キングスカイフロントの拠点 形成～力強い産業都市づくり を推進するライフイノベーションの取組～	川崎市総合企画局 臨海部国際戦略室担当係長 野和田 将太
第5回	5月30日	持続可能な生活保護制度の あり方について	川崎市健康福祉局 生活保護・自立支援室室長 亀川 栄
第6回	6月6日	都市型地域包括ケアシステム の構築 地域包括ケアシステム推進ビ ジョンの策定	川崎市健康福祉局 地域包括ケア推進室担当課長 河合 潔

2016年度 川崎市オムニバス講義

	講義日	講義テーマ	講師
第1回	5月14日	都市型地域包括ケアシステムの構築と認知症施策について	川崎市健康福祉局 地域包括ケア推進室担当係長 角野 孝一
第2回	5月21日	キングスカイフロントの拠点形成～力強い産業都市づくりを推進するライフイノベーションの取組～	川崎市臨海部国際戦略本部国際戦略推進部 担当課長 柴山 巖
第3回	5月28日	生活保護の現状と自立支援施策について	川崎市健康福祉局生活保護・自立支援室 適正実施担当課長 遠藤 俊明
第4回	6月4日	中小企業の新事業創出支援(川崎モデル)	川崎市経済労働局 産業政策部 企画課 オープンイノベーション推進担当 朝井 亮介 (公財)川崎市産業振興財団新事業新事業/知的財産コーディネータ 宇崎 勝
第5回	6月25日	障害者施策	川崎市健康福祉局精神保健課担当係長 山田 敦
第6回	7月2日	「環境」と「経済」の調和と好循環の実現を目指した地球温暖化対策・エネルギーの取組	川崎市環境局地球環境推進室担当課長 井田 淳

2017年度 川崎市オムニバス講義

	講義日	講義テーマ	講師
第1回	5月13日	川崎市地域包括ケアシステムの構築に向けて	川崎市健康福祉局 地域包括ケア推進室担当係長 横山 季央
第2回	5月20日	中小企業の新事業創出支援 (川崎モデル)	川崎市経済労働局 企画課担当係長 嶋村 敏孝 (公財)川崎市産業振興財団新事業 新事業 / 知的財産コーディネータ 宇崎 勝
第3回	5月27日	生活保護の現状と自立支援施策について	川崎市健康福祉局生活保護・ 自立支援室担当課長 加藤 弘
第4回	5月27日	キングスカイフロントの拠点形成 ～力強い産業都市づくりを推進する ライフイノベーションの取組～	川崎市臨海部国際戦略本部 国際戦略推進部担当課長 東 哲也
第5回	6月3日	精神科医療の現状と課題	川崎市健康福祉局 精神保健課担当係長 後藤 将志
第6回	6月10日	「環境」と「経済」の調和と好循環の実現を目指した地球温暖化対策・エネルギーの取組	川崎市環境局地球環境推進 室担当課長 宮川 潔

4-4. 政策提言公聴会

第2回政策提言公聴会

2017年度修了予定のRA8名等が文科省で政策提言公聴会を開催しました。

省庁関係者、産業界、シンクタンク、大学、メディア等から多数ご参加いただき、発表者毎に平均3件程度の質問・コメントがあり、高揚感が最後まで続いた発表会となりました。



日時：2018年2月26日（月）13:30～17:00

会場：文部科学省 情報ひろば（旧文部省庁舎1階 ラウンジ）





9 VOICES

世界をうごかす、
常識をくつがえす、
9つのアイデンティティ。

2018.2.26 [mon]

【時間】 13:30-17:00

入場無料

【会場】 文部科学省 情報ひろば
(旧文部省庁舎1階 ラウンジ)

慶應義塾大学 博士課程教育リーディングプログラム「超成熟社会発展のサイエンス」

2期生による政策提言公聴会

 Keio University

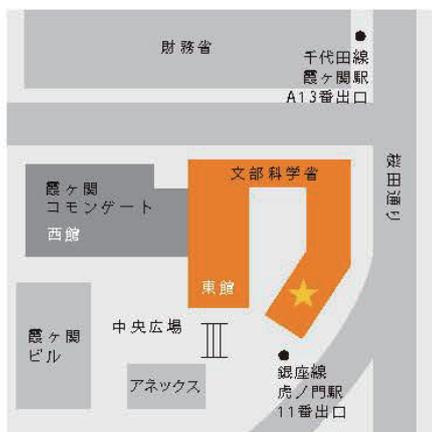
プログラム

- 13:30** ポスター発表
2期生8名+3期生1名
- 14:00** 開会挨拶
プログラムコーディネーター・理工学部教授 神成 文彦
- 14:05** 来賓挨拶
文部科学省 大学改革推進室専門官 高橋 浩太郎
- 14:10** 政策提言発表
- 16:35** 講評と閉会挨拶
理工学部訪問教授・政策提言担当 永野 博
- 17:00** 閉会

9つの提言書。
 大きく変える、
 日本の未来を

会場

文部科学省 情報ひろば
 (旧文部省庁舎 1階 ラウンジ)
 〒100-8959 東京都千代田区霞ヶ関3-2-2



アクセス/
 銀座線「虎ノ門駅」11番出口 直結
 千代田線「霞ヶ関駅」A13番出口 徒歩5分

発表者



小川 健司
 理工学研究科
 D2
 修士(工学)
 修士(医科学)



近藤 賢郎
 理工学研究科
 D2
 修士(工学)
 修士(医科学)



山田 翔士
 薬学研究科
 D2
 修士(薬科学)
 修士(商学)



安部 義隆
 理工学研究科
 D2
 修士(工学)
 修士(経済学)



中尾 光良
 薬学研究科
 D2
 修士(薬科学)
 修士(商学)



中村 雄輝
 社会学研究科
 D2
 修士(社会学)
 修士(経済学)



澤田 寛人
 政策・メディア研究科
 D2
 修士(政策・メディア)
 修士(経済学)



田中 裕樹
 理工学研究科
 D2
 修士(工学)
 Ingenieur de
 l'Ecole Centrale
 de Lyon



小西 隆介
 理工学研究科
 D2
 修士(工学)
 修士(政策・メディア)

お問合せ

慶應義塾大学
 オールラウンド型 リーディングプログラム事務局
 〒223-8522 神奈川県横浜市港北区日吉3-14-1 矢上創想館14-309
 mail/ lua3-info@adst.keio.ac.jp web/http://plgs.keio.ac.jp



Keio University



入場無料

SUPER DOCTOR

が考える10の政策提言

主催：慶應義塾大学 博士課程教育リーディングプログラム「超成熟社会発展のサイエンス」

2017.2.27(mon) 1期生による政策提言公聴会

【開会時間】 13:00 -16:45 【会場】 文部科学省 情報ひろば (旧文部省庁舎1階 ラウンジ)

まもなく社会へと飛び立つ次世代の博士
 ”SUPER DOCTOR”たちが、
 超成熟社会発展のための
 10のアイデアをお話しします。

プログラム

13:00

ポスター発表

SUPER DOCTOR10名による発表

14:00

開会挨拶

神成 文彦

プログラムコーディネーター・理工学部教授

14:05

来賓挨拶

文部科学省

14:10

政策提言発表

SUPER DOCTOR10名による発表

16:40

閉会挨拶

永野 博

慶應義塾大学訪問教授(政策提言指導)

16:45

閉会

会場

文部科学省 情報ひろば
 (旧文部省庁舎1階 ラウンジ)

〒100-8959 東京都千代田区霞ヶ関3-2-2

アクセス／

銀座線「虎ノ門駅」11番出口 直結

千代田線「霞ヶ関駅」A13番出口 徒歩5分



SUPER DOCTOR



坂本 正樹

法学研究科 D2
 修士(法学)
 修士(工学)

山本 優理

政策・メディア研究科 D2
 修士(政策・メディア)
 修士(医科学)



長尾 建

理工学研究科 D2
 修士(工学)
 修士(商学)

段 牧

理工学研究科 D2
 修士(工学)
 修士(商学)



安藤 大佑

理工学研究科 D2
 修士(工学)
 修士(商学)

加藤 拓巳

理工学研究科 D2
 修士(工学)
 修士(医科学)



兪 浩洋

理工学研究科 D2
 修士(工学)
 修士(医科学)

永嶋 弘樹

理工学研究科 D2
 修士(工学)
 修士(経済学)



吉岐 航

理工学研究科 D2
 修士(工学)
 修士(商学)

若泉 謙太

医学研究科 D4



お問合せ

慶應義塾大学 オールラウンド型リーディングプログラム事務局

〒223-8522 神奈川県横浜市港北区日吉3-14-1 矢上創想館14-309

mail/ lua3-info@adst.keio.ac.jp web/ http://plgs.keio.ac.jp



題字: 福澤諭吉